

## 小学校・道徳の内容項目の解説

# 善悪の判断・勇気

### ●小学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること		[一般的な呼称例]
低学年	(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。	善悪の判断・勇気
中学年	(3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。	善悪の判断・勇気
高学年	(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。	希望・勇気・努力

### ●解説

関連の説明	よいことあるいは正しいことについての的確に判断し、勇気をもって主体的に取り組める児童を育てようとする内容項目である。主に、第3・4学年の1の(3)及び第5・6学年の1の(2)、1の(3)と深くかかわっている。
全体的な理解	人としてやってよいこと、社会通念としてしてはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。それとともに、より積極的に健康的な自己像を描くことができるようにすることが大切である。そのためには、何事にも積極的に取り組む姿勢が必要となるが、その原動力が勇気であると考えられる。ただし、それは、蛮勇ではなく、よいと思ったり、正しいと判断したりできる力を伴った勇気でなくてはならない。特に価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎を培うために、よいことと悪いことの区別ができるように指導しておくことは重要である。
低学年	この段階においては、まだ集団生活に慣れていないために、引っ込み思案になったりものおじしたりすることも少なくない。行ってよいこと、人間としてしてはならないことが区別できる力を養うとともに、よいと思ったことは、遠慮しないで進んで行うことができるよう励まし、援助し、一貫した方針をもって指導していくことが大切である。
中学年	この段階においては、児童は認識能力を高め、正しいことや正しくないことについての判断力も高まってくる。しかし、正しいことと知りつつもそのことをなかなか実行できなかったり、悪いことと知りつつも回りに流されたり、自分の弱さに負けたりしてしまう時期でもある。そこで、正しいことを行えないときの後ろめたさや後悔の念と、勇気を発揮したときの自信と誇りについて考えることなどを通して、正しいと判断したことは勇気をもって行い、正しくないとは判断したことは勇気をもってやめる態度を育てる必要がある。
高学年	(希望・勇気・努力(高学年)より) この段階は、児童がそれぞれに高い理想を追い求める時期だといわれる。ある人物の生き方にあこがれたり、自分の夢や希望がふくらんだりする。同時に、自信がもてなかったり、夢と現実との違いを意識したりする時期でもある。このような時期であるからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、計画的に努力目標を立て、くじけずに希望と勇気をもって取り組み、その理想に向かって着実に前進していこうとする強い意志と実行力を育てる必要がある。その際、希望をもつことの大切さや挫折感を克服する人間の強さについて考えられるようにするとともに、第3・4学年の段階までの勇気に関する内容との関連において、勇気ある姿や真の勇気と蛮勇との違いについて指導することが重要である。そのことを通して、児童の中により積極的な自己像が形成される。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

### ■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること		[一般的な呼称例]
(2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。		希望・勇気・強い意志